

施策評価管理シート

2021(令和3)年6月作成

施策体系	政策	1	支え合い 健康でいきいきと暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	2	保健・医療・福祉のネットワークづくり		
	施策	3	地域医療	福祉子ども部	森嶋 和宏

1. 施策の基本方針(目指す将来像)



- 市立病院を核とする地域医療機関との機能分担と連携を強化して、安心して信頼できる地域医療体制を構築します。
- 伊賀地域における安心して安定した救急医療体制を確立するため、関係機関と連携しながら地域内の病院の機能分担と連携の強化をさらに進めます。

2. 令和2年度の実績内容及びその成果



- ・伊賀地域の救急医療を担う伊賀市立上野総合病院、岡波総合病院と市立病院で定期的に開催する「伊賀地域二次救急医療に係る意見交換会」において、地域における安心して安定した救急医療について、3病院で輪番体制を維持しながら、二次救急医療体制の継続を確認するなど、連携強化や医療体制の確保に努めました。
- ・地域医療機関からの紹介件数の増加に向け、医師をはじめ地域医療連携担当が地域開業医を訪問する予定でしたが、年間を通じコロナ禍にあったことから令和2年度中の訪問は先送りとなりました。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、三重県からの委託を受け、市と名賀医師会が協働して、名張市PCR検査センターを開設し、PCR検査を受けやすい環境を整備するとともに、地域医療体制を確保し、感染拡大防止の取組を進めました。
- ・市立病院に地域包括ケア病棟を開設し、急性期医療から回復期医療を経て在宅復帰に繋げる地域包括ケアシステムにおける一定の役割を果たしました。
- ・三重大学等による寄附講座開設により、市立病院への派遣医師の確保を図りました。
- ・産婦人科開設に向けては、コロナ対応を最優先にすることにおいて計画が延伸していますが、関係機関との継続的な調整に努めました。
- ・病院事務局の体制強化を図るため、2名のプロパー職員を採用しました。
- ・医師間の情報共有や連携・協力体制を強化するため4月に医局会を設置し、定期的に会議を開催しています。また、これにより医師と事務局との情報共有・伝達もスムーズになりました。

3. 施策指標(目標)の達成状況



施策指標(目標)の内容(単位)		基準値(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	進捗率
地域医療機関(開業医や公立病院等)での現在の医療体制に満足している市民の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	50.5	
	成果	48.8	53.8	53.4	57.6			100.0%
かかりつけ医を決めている人の割合(%)	目標	-	-	-	-	-	85.0	
	成果	77.7	78.9	77.1	74.7			0.0%
地域医療機関等から市立病院への紹介件数(件/月)	目標	-	-	-	-	-	554	
	成果	527	491	482	481			0.0%
市立病院から地域医療機関等への紹介件数(件/月)	目標	-	-	-	-	-	529	
	成果	526	524	478	470			0.0%

4. 成果や施策指標の状況を踏まえた課題や現状の分析



- ・限られた医療資源を効率的かつ効果的に機能させることが必要です。
- ・医師確保面では令和2年度は初期研修医が3名減の2名となりました。また、令和3年度は1名となっています。当院希望者が4名としていましたが、結果は1名の採用に留まりましたので、当院に関心を寄せる医学生の確実な採用に向けた取組が必要です。
- ・地域開業医からの紹介率・逆紹介率は向上しましたが、紹介及び逆紹介の案件数は減少しました。コロナ禍の中でもウイズコロナ、アフターコロナを考慮した紹介件数の増加に繋がる取組を推進しなければなりません。
- ・地域包括ケア病棟の安定的な運用を図るため定期的に入院患者に係る調整会議を実施し、コロナ禍の中でも一定の病床稼働率を確保しました。しかし、コロナ禍の影響を受け急性期患者が減少したことなどから90%稼働を目指したところ約74%の稼働率に留まりました。
- ・かかりつけ医師、歯科医師、薬剤師を持つことにより、日頃からの健康管理や病気の予防・早期治療につながるのと同時に、かかりつけ医等が介護と医療の連携による在宅医療においても中心的な役割を果たすことを周知啓発していくことが必要です。

5. 分析結果を踏まえた施策の取組内容（令和3年度以降）



- ・伊賀地域の二次救急医療体制を確保するため、限られた医療資源を有効活用し、3病院による輪番体制を維持・継続します。
- ・伊賀地域医療構想調整会議において、2022年秋の地域民間病院の移転を踏まえ、地域の実情に合わせた病床の機能転換や急性期機能のあり方等、伊賀地域の医療体制の方向性について協議を行います。
- ・市立病院に関心を寄せる医学生を増加させるために、病院見学、病院説明会を通じた当院の魅力の積極的な発信に取り組みます。また、リニューアルしたホームページを活用した有益な情報発信に努めます。
- ・今後、市内開業医の高齢化による医療提供体制の低下が懸念されるほか、新型コロナウイルスなどの感染症に適切な対応を可能とする医療機関が求められます。地域医療支援病院として地域医療機関との更なる連携・協力体制を築きます。コロナ禍の状況を考慮しつつ地域開業医への訪問を速やかに実施します。
- ・救急医療を中心としていましたが、地域医療機関との連携強化により当院の強みをアピールするとともに、地域ニーズを適切に把握することで、紹介患者、予定入院患者の拡大に向けた取組を推進します。
- ・身近なかかりつけ医師等を持つ人の増加に向け、市ホームページや市内モニター等により周知啓発に努めます。

施策を構成する主な事務事業

*事業費1,000千円以上の事務事業を掲載しています(施設等維持管理、内部管理事務の事業を除きます)。

*R2決算見込は、R1からの繰越額も含みます。

*R3予算は、R3.4.1時点での金額を記載しています。(R2からの繰越額含む。)

*R3予算のみ金額が記載されている事務事業は、R3の事業内容を記載しています。

(単位：千円)

会計	事務事業名	担当部署名	担当室名	令和2年度内容	R2決算見込		R3予算	
					決算額	うち一般財源	予算額	うち一般財源
一般	医療体制推進費	福祉子ども部	医療福祉総務室	夜間・休日の一次及び二次救急患者の受入体制を確保するとともに、救急医療の適正受診を促進し、地域で安心できる医療体制の整備を図りました。 (令和2年度実績) ・年末年始在宅歯科応急診療委託 ・一次救急医療体制事業委託 ・救急医療情報システム運営事業	3,984	3,661	4,167	3,723
一般	病院群輪番制病院運営事業	福祉子ども部	医療福祉総務室	伊賀地域の二次救急医療に対応するため、名張市立病院・上野総合市民病院・岡波総合病院が行う救急輪番体制を整備するために必要な運営経費の一部負担を行いました。また、岡波総合病院に対しては、民間病院救急医療体制整備に係る一部負担を行いました。	59,370	16,476	49,518	22,932
一般	医療体制推進寄附講座開設事業	福祉子ども部	医療福祉総務室	関係大学に対して寄附講座を設置し、専門性の高い医療の研究を進めるとともに、名張市立病院への医師派遣等により、伊賀地域における二次救急医療の確保を図りました。	36,074	30,074	36,075	30,075
一般	看護師等修学資金貸付事業	市立病院事務局	総務企画室	看護師等を養成する学校又は養成所に在学し、市内の指定機関(市の機関、又は、市内の医療機関)で将来勤務しようとする者に修学資金を貸与しました。 (令和2年度実績) ・貸与者 看護師 36名(うち当年度新規14件)	8,412	8,412	9,991	9,991
病院事業会計	病院事業会計	市立病院事務局	総務企画室	良質で高度な二次医療の提供と救急医療に重点を置き、地域の中核病院として機能を果たすため、地域医療支援病院の承認や災害拠点病院の指定を受け、在宅医療救急システムや重症患者の在宅訪問診療、24時間365日の小児二次救急を実施しています。また令和2年4月より伊賀地域の回復期機能の拡充を図るため地域包括ケア病棟41床を開設しました。 ・病床数： 一般200床(うち地域包括ケア病棟41床) ・実績 年間延患者数： 入院49,894人 外来67,401人 一日平均患者数： 入院137人 外来277人	6,175,273	1,105,893 (一般会計からの繰入金)	6,122,258	1245,031 (一般会計からの繰入金)